

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和7年 6月 30日

尼崎市長 殿

提出者

住所 尼崎市東七松町2丁目4-16

氏名 尼崎市公営企業管理者
中川 照文

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 06-6499-0345
（神崎浄水場）

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	尼崎市公営企業局神崎浄水場
事業場の所在地	尼崎市次屋4丁目6-1
計画期間	令和7年4月1日から令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	3611 上水道業（3621 工業用水道業）
②事業の規模	上水配水 10,680,600 ^m 工水配水 5,124,180 ^m （令和6年度実績）
③従業員数	26人（令和7年4月時点）
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)
別紙2のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 6 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり
	排出量	t
	<p>(これまでに実施した取組)</p> <p>(0200 汚泥) 取水量によって汚泥の排出量及びスラッジ量が決まるため、スラッジの減量は困難である。</p> <p>(2100 安定型混合廃棄物) 設備の維持管理において発生するものであり、設備を良好な状態に保つために致し方が無く、減量は困難である。</p>	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり
	排出量	t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>(0200 汚泥) 取水量によって汚泥の排出量及びスラッジ量が決まるため、スラッジの減量は困難である。</p> <p>(2100 安定型混合廃棄物) 設備の維持管理において発生するものであり、設備を良好な状態に保つために致し方が無く、減量は困難である。</p> <p>(1300 ガラス・コンクリート・陶磁器くず) 各種試験に必要な試薬の量は決まっており、使用後の空き瓶の減量は困難である。</p>	

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	<p>(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)</p> <p>汚泥、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、廃油を分別して保管し、分別できない廃プラスチック類、金属くず等については、管理型混合廃棄物として保管している。</p>
②計画	<p>(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)</p> <p>汚泥、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、廃油を分別して保管し、分別できない廃プラスチック類、金属くず等については、管理型混合廃棄物として保管する。</p>

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和 6年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	別紙3のとおり
	（これまでに実施した取組） 特になし	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	別紙3のとおり
	（今後実施する予定の取組） 特になし	

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和 6年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	別紙3のとおり
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	別紙3のとおり
（これまでに実施した取組） （0200 汚泥） 排泥池、濃縮槽における重力濃縮、加圧脱水機による脱水処理により汚泥の減量化を行っている。 （0200 汚泥以外） 特になし		
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	別紙3のとおり
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	別紙3のとおり
（今後実施する予定の取組） （0200 汚泥） 排泥池、濃縮槽における重力濃縮、加圧脱水機による脱水処理により汚泥の減量化を行う。 （0200 汚泥以外） 特になし		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和 6年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	別紙3のとおり
	(これまでに実施した取組) 特になし	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	別紙3のとおり
	(今後実施する予定の取組) 特になし	

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和 6年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t
	再生利用業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t
(これまでに実施した取組) (0200 汚泥) 現在埋立処分を委託しており、マニフェストで適切に処理されていることを確認している。またスラッジを埋め戻し材に再生処理をすることで有効利用できる再生処理業者が無いか調査している。 (0200 汚泥以外) 徹底して分別し、また分別できないものは安定型混合産業廃棄物として、許可業者に収集運搬および処理委託し、マニフェストで適切に処理されていることを確認した。		

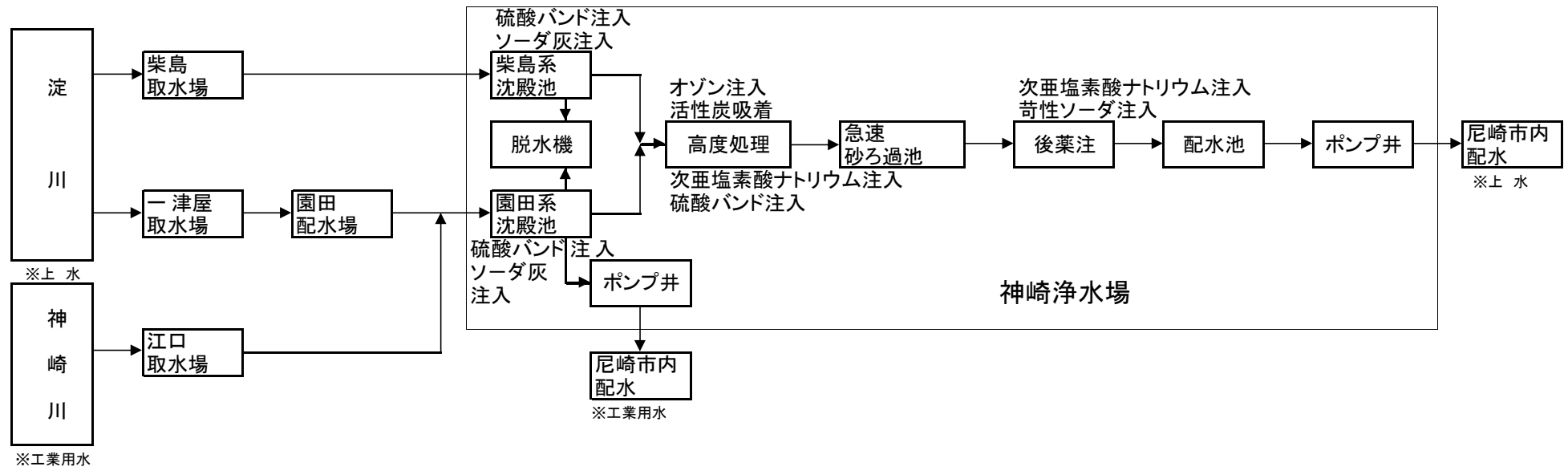
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	全処理委託量		t
	優良認定処理業者への処理委託量		t
	再生利用業者への処理委託量		t
	認定熱回収業者への処理委託量		t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		t
(今後実施する予定の取組) (0200 汚泥) 現在埋立処分を委託しており、マニフェストで適切に処理されていることを確認する。またスラッジを埋め戻し材に再生処理できる再生処理業者が無いか調査する。 (0200汚泥以外) 徹底して分別し、また分別できないものは安定型混合廃棄物として、許可業者に収集運搬および処理委託し、マニフェストで適切に処理されていることを確認する。			

(第6面)

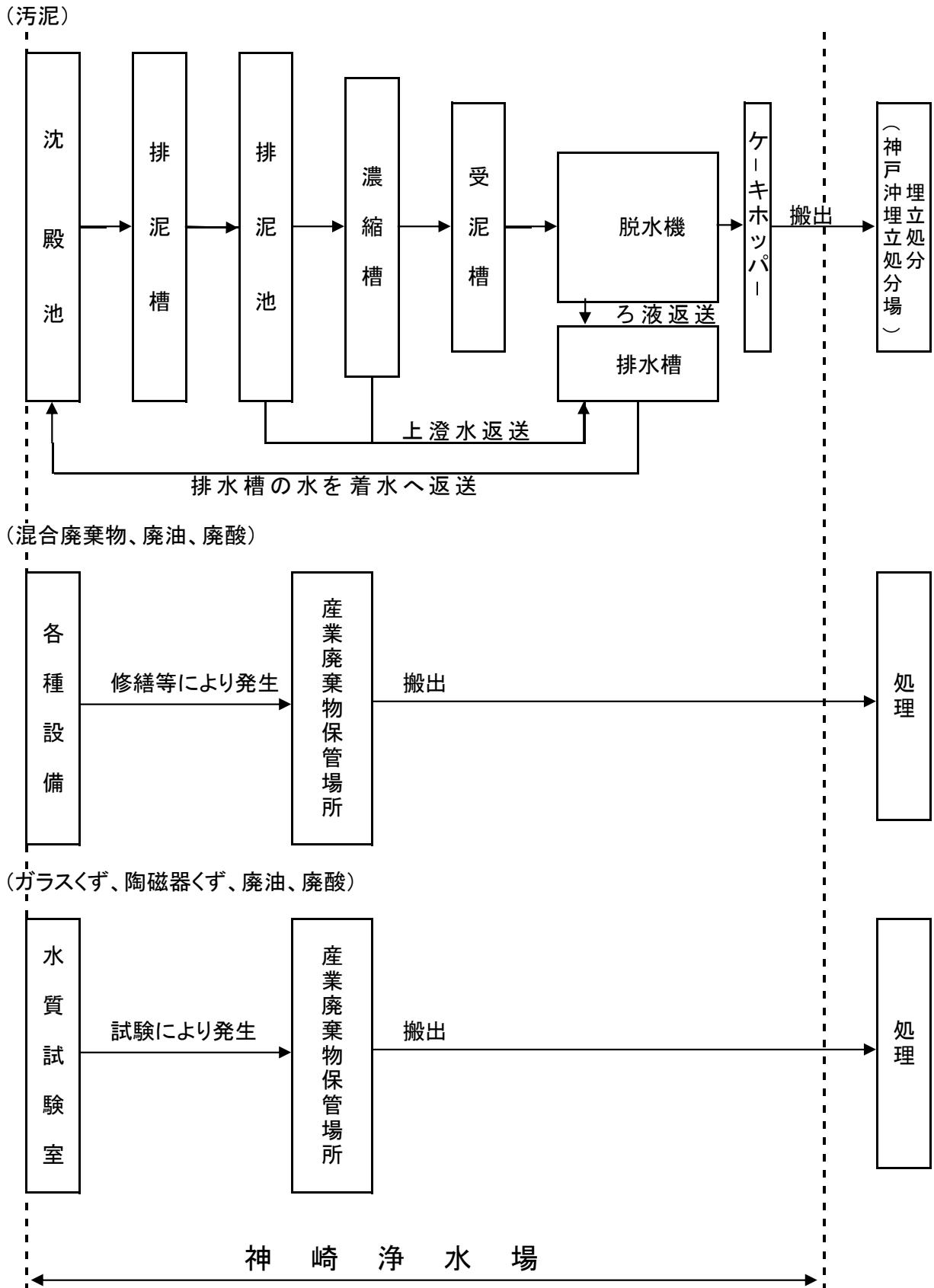
備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

製 造 フ ロ ー シ ー ト



廃 棄 物 フ ロ ー シ ー ト



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

○ 現状 前年度（令和 6 年度）実績

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	2100 安定型 混合廃棄物 (廃プラスチック類、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず)	1300 ガラス・コンクリート・ 陶磁器くず	合計
排出量	14,607.2 t	0.49t	0t	14607.69 t

○ 計画 目標

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	2100 安定型 混合廃棄物 (廃プラスチック類、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず)	1300 ガラス・コンクリート・ 陶磁器くず	合計
排出量	13576.7 t	2.4 t	0.60 t	13579.7 t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

○ 現状 前年度（令和 6 年度）実績

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	2100 安定型 混合廃棄物 (廃プラスチック類、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず)	1300 ガラス・コンクリート・ 陶磁器くず	合計
自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t

○ 計画 目標

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	2100 安定型 混合廃棄物 (廃プラスチック類、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず)	1300 ガラス・コンクリート・ 陶磁器くず	合計
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

○ 現状 前年度（令和 6 年度）実績

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	2100 安定型 混合廃棄物 (廃プラスチック類、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず)	1300 ガラス・コンクリート・ 陶磁器くず	合計
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	14048.3 t	0 t	0 t	14048.3 t

○ 計画 目標

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	2100 安定型 混合廃棄物 (廃プラスチック類、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず)	1300 ガラス・コンクリート・陶磁器くず	合計
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	13125.7 t	0 t	0 t	13125.7 t

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

○ 現状 前年度（令和6年度）実績

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	2100 安定型 混合廃棄物 (廃プラスチック類、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず)	1300 ガラス・コンクリート・陶磁器くず	合計
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t

○ 計画 目標

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	2100 安定型 混合廃棄物 (廃プラスチック類、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず)	1300 ガラス・コンクリート・陶磁器くず	合計
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

○ 現状 前年度（令和6年度）実績

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	2100 安定型 混合廃棄物 (廃プラスチック類、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず)	1300 ガラス・コンクリート・陶磁器くず	合計
全処理委託量	558.9 t	0.49 t	0 t	559.39 t
優良認定処理業者への処理委託量	0 t	0.49 t	0 t	0.49 t
再生利用業者への処理委託量	0 t	0.2 t	0 t	0.2 t
認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0.15 t	0 t	0.15 t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t

○ 計画 目標

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	2100 安定型混合廃棄物 (廃プラスチック類、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず)	1300 ガラス・コンクリート・陶磁器くず	合計
全処理委託量	451 t	2.4 t	0.60 t	454 t
優良認定処理業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t
再生利用業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和7年 6月 30日

尼崎市長 殿

提出者

住所 尼崎市東七松町2丁目4番16号

氏名 尼崎市公営企業管理者 中川 照文

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 06-6491-1342

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	尼崎市公営企業局 水道部 浄水センター 園田配水場
事業場の所在地	尼崎市田能6丁目5番2号
計画期間	令和7年4月1日 から 令和8年3月31日 まで

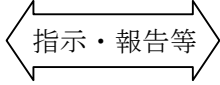
当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	3621 工業用水道業
②事業の規模	配水量 40,475,000m ³ （令和6年度実績）
③従業員数	12人（令和7年4月1日時点）
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

産業廃棄物管理責任者 浄水センター 所長 当



浄水センター 工業用水担

(担当業務)

- 1 行政への報告
- 2 産業廃棄物の引渡し及び適正処理の確認
- 3 産業廃棄物管理票の交付及び保管

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 6 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	排出量	t
	(これまでに実施した取組) 汚泥の排出抑制に向けた薬品注入量の適正な管理。	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	排出量	t
	(今後実施する予定の取組) 引き続き汚泥の排出抑制に向けた薬品注入量の適正な管理を行う。	

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 汚泥は専用池にて保管している。また、廃油は危険物倉庫にて保管し、それ以外は飛散等がないよう適切な保管に努めている。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 特になし。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和 6年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t
	(これまでに実施した取組) 特になし。	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t
	(今後実施する予定の取組) 特になし。	

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和 6年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t
(これまでに実施した取組) 汚泥の中間処理で発生する上澄水は原水に還元して再利用している。		
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t
(今後実施する予定の取組) 特になし。（従来通り）		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和 6年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t t
	(これまでに実施した取組) 特になし。	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t t
	(今後実施する予定の取組) 特になし。	

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和 6年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t
	再生利用業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t
(これまでに実施した取組) 汚泥は、再生利用業者への処理委託を実施した。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量		t
	優良認定処理業者への 処理委託量		t
	再生利用業者への 処理委託量		t
	認定熱回収業者への 処理委託量		t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量		t
(今後実施する予定の取組) 特になし。			
※事務処理欄			

(第6面)

備考

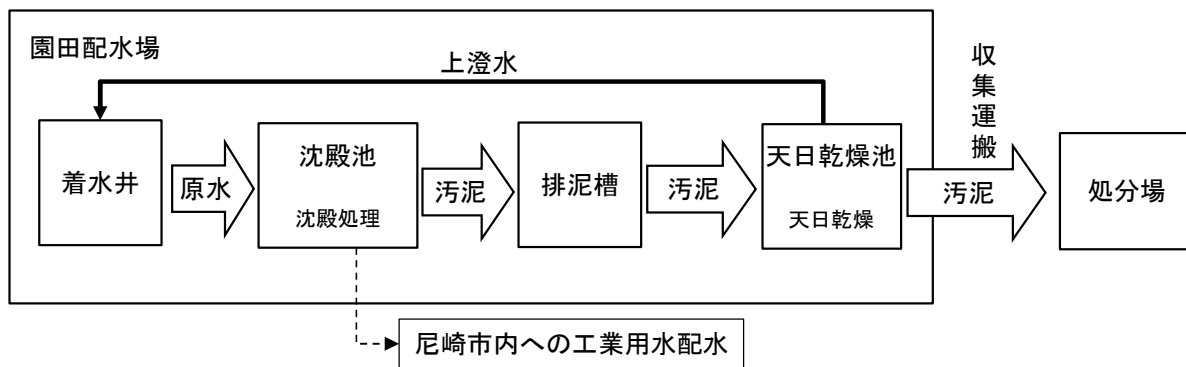
- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

請
じ
ま
と。

(第1面) 当該事業場において現に行っている事業に関する事項

④産業廃棄物の一連の処理の工程

0200 汚泥



工程	実施者	処分等の方法
中間処分	自社	天日乾燥及び上澄水の再利用
収集運搬	(株) 摂津 (予定)	車両による
処分	大阪湾広域臨海環境整備センター (予定)	管理型埋立

1300 ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
計量・水質検査用器具の破損によるガラスくず、
場内修繕に伴い発生するコンクリートくず、陶磁器くず等

工程	実施者	処分等の方法
収集運搬	自社	自社車両による
処分	中間	破碎及び水銀改修による再資源化
	最終	管理型埋立

2200 管理型混合廃棄物 (廃プラスチック類、金属くず)
修繕・保守に伴う交換部品、廃材等

工程	実施者	処分等の方法
収集運搬		車両による
処分	中間	破碎・圧縮
	最終	管理型埋立

0300 廃油
修繕・保守に伴い機器より排出される機械油

工程	実施者	処分等の方法
収集運搬		車両による
処分		油水分離

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状 【前年度（令和6年度）実績】

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	1300 ガラスくず、 コンクリートくず 及び陶磁器くず	2200 管理型混合廃棄物 (廃プラスチック類、金属くず)	0300 廃油	計
排出量	17,879.40 t	0.03 t	0 t	0 t	17,879.43 t

②計画 【目標】

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	1300 ガラスくず、 コンクリートくず 及び陶磁器くず	2200 管理型混合廃棄物 (廃プラスチック類、金属くず)	0300 廃油	計
排出量	17,535.50 t	0 t	0 t	0.29 t	17,535.79 t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状 【前年度（令和6年度）実績】

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	1300 ガラスくず、 コンクリートくず 及び陶磁器くず	2200 管理型混合廃棄物 (廃プラスチック類、金属くず)	0300 廃油	計
自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t

②計画 【目標】

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	1300 ガラスくず、 コンクリートくず 及び陶磁器くず	2200 管理型混合廃棄物 (廃プラスチック類、金属くず)	0300 廃油	計
自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状 【前年度（令和6年度）実績】

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	1300 ガラスくず、 コンクリートくず 及び陶磁器くず	2200 管理型混合廃棄物 (廃プラスチック類、金属くず)	0300 廃油	計
自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	17,232.80 t	0 t	0 t	0 t	17,232.80 t

②計画 【目標】

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	1300 ガラスくず、 コンクリートくず 及び陶磁器くず	2200 管理型混合廃棄物 (廃プラスチック類、金属くず)	0300 廃油	計
自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	16,635.50 t	0 t	0 t	0 t	16,635.50 t

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状 【前年度（令和6年度）実績】

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	1300 ガラスくず、 コンクリートくず 及び陶磁器くず	2200 管理型混合廃棄物 (廃プラスチック類、金属くず)	0300 廃油	計
自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t

②計画 【目標】

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	1300 ガラスくず、 コンクリートくず 及び陶磁器くず	2200 管理型混合廃棄物 (廃プラスチック類、金属くず)	0300 廃油	計
自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状 【前年度（令和6年度）実績】

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	1300 ガラスくず、 コンクリートくず 及び陶磁器くず	2200 管理型混合廃棄物 (廃プラスチック類、金属くず)	0300 廃油	計
全処理委託量	646.6 t	0.03 t	0 t	0 t	646.63 t
優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	0.03 t	0 t	0 t	0.03 t
再生利用業者への 処理委託量	0 t	0.027 t	0 t	0 t	0.027 t
認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t

②計画 【目標】

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	1300 ガラスくず、 コンクリートくず 及び陶磁器くず	2200 管理型混合廃棄物 (廃プラスチック類、金属くず)	0300 廃油	計
全処理委託量	900 t	0 t	0 t	0.29 t	900.29 t
優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
再生利用業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和7年 6月 27日

尼崎市長 殿

提出者

住所 尼崎市東七松町2-4-16

氏名 尼崎市公共下水道管理者
尼崎市公営企業管理者 中川 照文

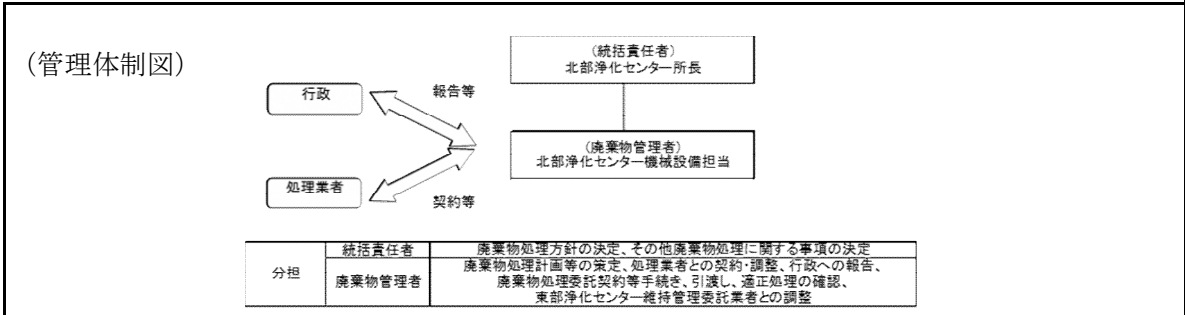
（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 06-6499-4515

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	東部浄化センター
事業場の所在地	尼崎市西松島町32
計画期間	令和7年4月1日から令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	3631 下水道処理施設維持管理業
②事業の規模	処理量 2,478万 ³ m（令和6年度実績）
③従業員数	30人（令和7年4月1日現在）
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 6 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	排出量	t
	(これまでに実施した取組) 汚泥（下水汚泥）は、流入下水の水量、水質等の状態によって変動するが、水処理施設からの汚泥の引き抜き量をきめ細やかに設定することにより、過剰な汚泥の引き抜きを防止している。	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	排出量	t
	(今後実施する予定の取組) 汚泥（下水汚泥）は、上述のとおり汚泥の発生工程から削減が難しいが、兵庫東流域下水汚泥広域処理場と連携を取りながら、適切な処理に努めていく。その他については、今後とも分別を徹底し、有価売却できるものを増やすことにより、廃棄物排出量を減らしていく。	

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃棄物の保管場所を、廃棄物の種類ごとに分け、分別保管している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 今後とも分別を徹底・継続していく。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和 6 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t t
	(これまでに実施した取組) 特になし	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t t
	(今後実施する予定の取組) 特になし	

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和 6 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t t
(これまでに実施した取組) 特になし		
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t t
(今後実施する予定の取組) 特になし		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和 6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 特になし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 特になし		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和 6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
(これまでに実施した取組) 汚泥（下水汚泥）は委託処理業者から処理状況等について定期的に報告を受け、適切に中間処理が行なわれているかを確認している。 その他の廃棄物は、分別を徹底し、できるだけ有価売却することで、リサイクルを推進している。			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		別紙のとおり
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
(今後実施する予定の取組) 汚泥（下水汚泥）は委託処理業者から処理状況等について定期的に報告を受け、適切に中間処理が行なわれているかを確認し、その他の廃棄物は、分別を徹底することで、リサイクルを推進する取組を継続していく。			
※事務処理欄			

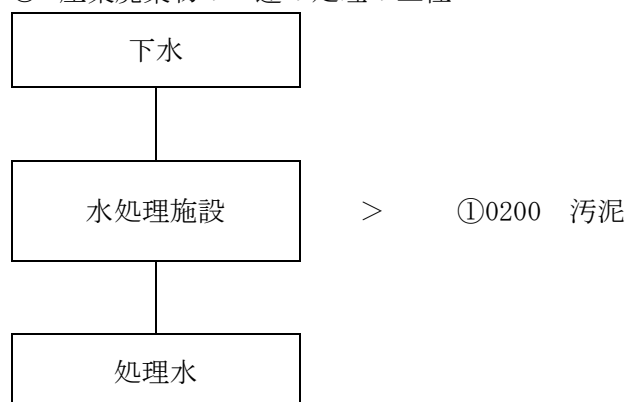
(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

○ 産業廃棄物の一連の処理の工程



①0200 汚泥

パイプ圧送 → 脱水・焼却 → 埋立

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状 前年度（令和6年度）実績

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	合計
排出量	258,039t	258,039t

②計画 目標

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	合計
排出量	304,700t	304,700t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状 前年度（令和6年度）実績

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	合計
自ら再生利用を行った量	0t	0t

②計画 目標

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	合計
自ら再生利用を行った量	0t	0t

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状 前年度（令和6年度）実績

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	合計
自ら熱回収を行った量	0t	0t
自ら中間処理により減量した量	0t	0t

②計画 目標

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	合計
自ら熱回収を行った量	0t	0t
自ら中間処理により減量した量	0t	0t

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状 前年度（令和6年度）実績

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	合計
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0t	0t

②計画 目標

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	合計
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0t	0t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状 前年度（令和6年度）実績

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	合計
全処理委託量	258,039t	258,039t
優良認定処理業者への処理委託量	0t	0t
再生利用業者への処理委託量	0t	0t
認定熱回収業者への処理委託量	0t	0t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0t	0t

②計画 目標

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	合計
全処理委託量	304,700t	304,700t
優良認定処理業者への処理委託量	0t	0t
再生利用業者への処理委託量	0t	0t
認定熱回収業者への処理委託量	0t	0t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0t	0t

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和7年 6月 27日

尼崎市長 殿

提出者

住所 尼崎市東七松町2-4-16

氏名 尼崎市公共下水道管理者
尼崎市公営企業管理者 中川 照文

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 06-6499-4515

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

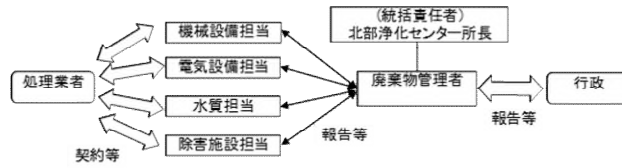
事業場の名称	北部浄化センター
事業場の所在地	尼崎市東園田町7-82
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	3631 下水道処理施設維持管理業
②事業の規模	処理量 2,257万 ^m （令和6年度実績）
③従業員数	21人（令和7年4月1日現在）
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



統括責任者	産業廃棄物処理方針の決定、その他産業廃棄物処理に関する事項の決定
廃棄物管理者	産業廃棄物処理計画等の策定、行政への報告、関係部署との調整、 産業廃棄物保管場所の管理、関係法令等の教育、啓発、指導監督
担当者(全員)	産業廃棄物処理委託契約等手続き、引渡し、適正処理の確認 産業廃棄物の発生量削減、分別、保管場所への運搬

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 6 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	排出量	t
	(これまでに実施した取組) 汚泥（下水汚泥）は、流入下水の水量、水質等の状態によって変動するが、水処理施設からの汚泥の引き抜き量をきめ細やかに設定することにより、過剰な汚泥の引き抜きを防止している。	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	排出量	t
	(今後実施する予定の取組) 汚泥（下水汚泥）は、上述のとおり汚泥の発生工程から削減が難しいが、兵庫東流域下水汚泥広域処理場と連携を取りながら、適切な処理に努めていく。その他については、今後とも分別を徹底し、有価売却できるものを増やすことにより、廃棄物排出量を減らしていく。	

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃棄物の保管場所を、廃棄物の種類ごとに分け、分別保管している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 今後とも分別を徹底・継続していく。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和 6年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t t
	(これまでに実施した取組) 特になし	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t t
	(今後実施する予定の取組) 特になし	

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和 6年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t t
(これまでに実施した取組) 特になし		
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t t
(今後実施する予定の取組) 特になし		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和 6年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t t
	(これまでに実施した取組) 特になし	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t t
	(今後実施する予定の取組) 特になし	

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和 6年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	全処理委託量	t t
	優良認定処理業者への処理委託量	t t
	再生利用業者への処理委託量	t t
	認定熱回収業者への処理委託量	t t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t t
(これまでに実施した取組) 汚泥（下水汚泥）は委託処理業者から処理状況等について定期的に報告を受け、適切に中間処理が行なわれているかを確認している。 その他の廃棄物は、分別を徹底し、できるだけ有価売却することで、リサイクルを推進している。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	別紙のとおり		
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	
(今後実施する予定の取組) 汚泥（下水汚泥）は委託処理業者から処理状況等について定期的に報告を受け、適切に中間処理が行なわれているかを確認し、その他の廃棄物は、分別を徹底することで、リサイクルを推進する取組を継続していく。			
※事務処理欄			

(第6面)

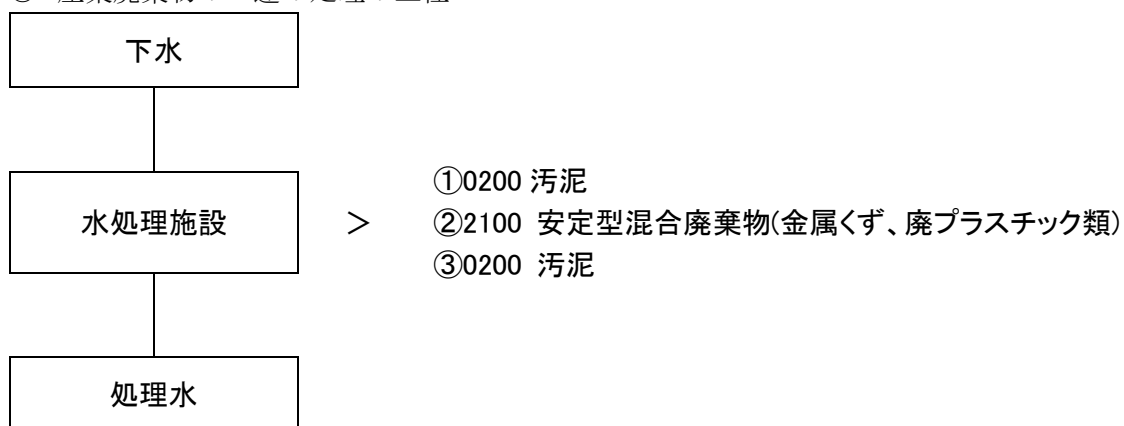
備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

請
じ
ま
と。

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

○ 産業廃棄物の一連の処理の工程



① 0200 汚泥

パイプ圧送→脱水・焼却→埋立

② 2100 安定型混合廃棄物(金属くず、廃プラスチック類)

収集運搬→破碎・選別

③ 0200 汚泥

収集運搬

→下水道法第 21 条の 2 並びに下水道法施行令第 13 条の 3、第 13 条の 4 に基づき処理

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状 前年度（令和6年度）実績

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	2100 安定型 混合廃棄物	0200 汚泥	合計
排出量	169,298t	0.86t	58.61t	169,357.47t

②計画 目標

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	2100 安定型 混合廃棄物	0200 汚泥	合計
排出量	206,800t	0.86t	58.61t	206,859.47t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状 前年度（令和5年度）実績

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	2100 安定型 混合廃棄物	0200 汚泥	合計
自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t

②計画 目標

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	2100 安定型 混合廃棄物	0200 汚泥	合計
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状 前年度（令和6年度）実績

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	2100 安定型 混合廃棄物	0200 汚泥	合計
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0t	0t	36.56t	36.56t

②計画 目標

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	2100 安定型 混合廃棄物	0200 汚泥	合計
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0t	0t	36.56t	36.56t

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状 前年度（令和5年度）実績

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	2100 安定型 混合廃棄物	0200 汚泥	合計
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t

②計画 目標

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	2100 安定型 混合廃棄物	0200 汚泥	合計
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0t	0t	0t	0t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状 前年度（令和6年度）実績

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	2100 安定型 混合廃棄物	0200 汚泥	合計
全処理委託量	169,298t	0.86t	58.61t	169,357.47t
優良認定処理業者への処理委託量	0t	0.86t	0t	0.86t
再生利用業者への処理委託量	0t	0.86t	0t	0.86t
認定熱回収業者への処理委託量	0t	0t	0t	0t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0t	0t	0t	0t

②計画 目標

産業廃棄物の種類	0200 汚泥	2100 安定型 混合廃棄物	0200 汚泥	合計
全処理委託量	206,800t	0.86t	58.61t	206,859.47t
優良認定処理業者への処理委託量	0t	0.86t	0t	0.86t
再生利用業者への処理委託量	0t	0.86t	0t	0.86t
認定熱回収業者への処理委託量	0t	0t	0t	0t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0t	0t	0t	0t

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和7年 6月 27日

尼崎市長 殿

提出者

住所 尼崎市田能5丁目11番1号

氏名 阪神水道企業団 技術部 浄水管理事務所
所長 中安 眞司

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 06-6491-1271

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	阪神水道企業団 技術部 浄水管理事務所 尼崎浄水場
事業場の所在地	尼崎市南塚口町4丁目5番65号
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	3611 上水道業
②事業の規模	100,526,000m ³
③従業員数	73名（令和7年4月1日現在）
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)
別紙のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	0200 汚泥	
	排出量	25,507 t	t
	(これまでに実施した取組) 無し		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	0200 汚泥	
	排出量	22,331 t	t
	(今後実施する予定の取組) 無し		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 無し
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 無し

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和 6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	0200 汚泥	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組)		
	無し		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	0200 汚泥	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	無し		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和 6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	0200 汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	22,423 t	t
	(これまでに実施した取組)		
無し			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	0200 汚泥	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	19,631 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
無し			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	0200 汚泥	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 無し		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	0200 汚泥	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 無し		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	0200 汚泥	
	全処理委託量	3,084 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	t
	再生利用業者への処理委託量	3,084 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 廃棄物の全量再生利用を行った。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	0200 汚泥	
	全処理委託量	2,700 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	2,700 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組)		
引き続き、廃棄物の全量再生利用を行う。			
※事務処理欄			

(第6面)

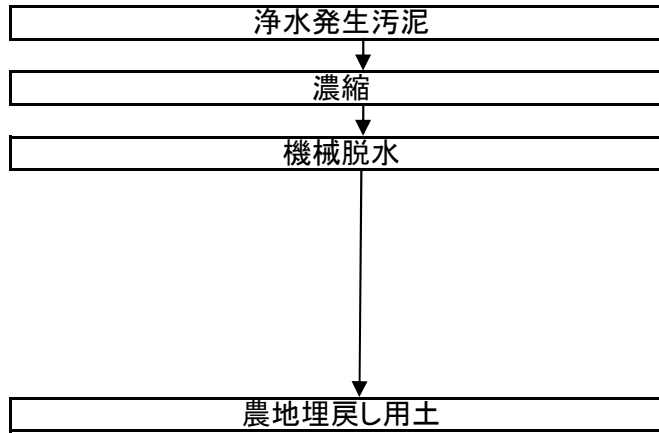
備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じた事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

請
じ
ま
と。

当該浄水場において現に行っている事業に関する事項

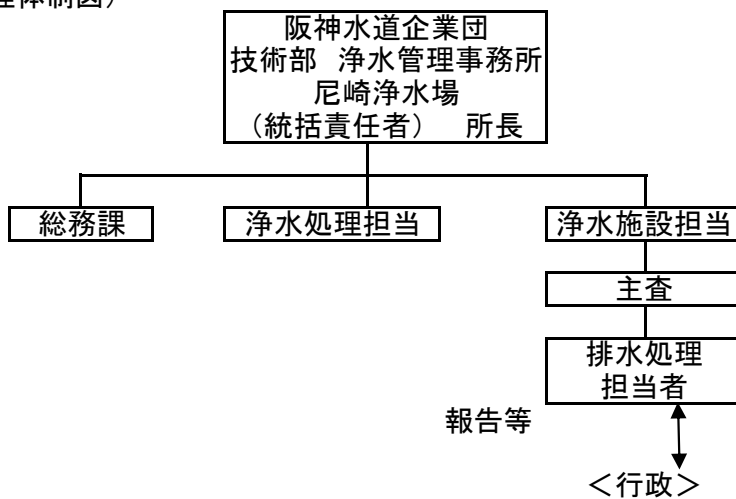
○産業廃棄物の一連の処理工程



- ・ 農地理戻し土
 収集運搬<大栄工業>
 → 農地理戻し用土として処分業務委託

産業廃棄物の処理に関する管理体制に関する事項

(管理体制図)



（第1面）

産業廃棄物処理計画書

7 年 6 月 5 日

尼崎市長 殿

提出者

住所 尼崎市東難波町5-21-8

氏名 兵庫県阪神南県民センター
阪神南県民センター長 團野礼子

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 (西宮土木事務所流域下水道第2課)
0798-39-6138

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称 兵庫県武庫川下流浄化センター

事業場の所在地 尼崎市平左衛門町18-4

計画期間 令和7年4月1日～令和8年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類

3631 下水道業

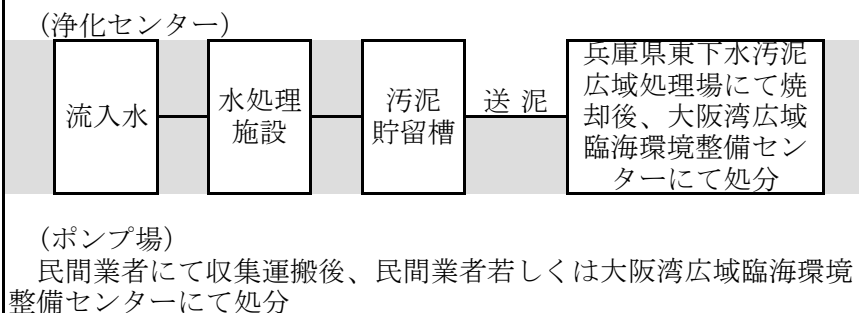
②事業の規模

処理水量 9,596万m³/年（令和6年度実績）

③従業員数

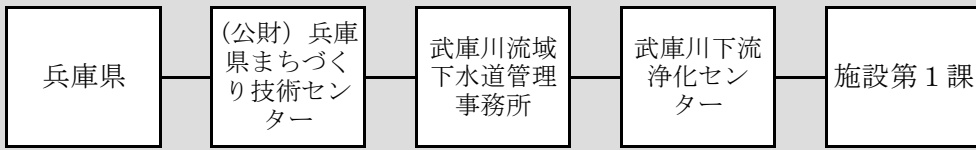
38人（維持管理会社含む、令和7年4月1日現在）

④産業廃棄物の一連の処理の工程



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	0200 汚泥	
	排出量	1,175,680 t	t
	(これまでに実施した取組) なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	0200 汚泥	
	排出量	1,400,000 t	t
	(今後実施する予定の取組) なし		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 当事業所から発生する産業廃棄物の汚泥は、下水中に含まれる汚泥から発生したものであるため、分別は不可能となる。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 同上

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	0200 汚泥	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0.00 t	t
	(これまでに実施した取組) なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	0200 汚泥	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0.00 t	t
	(今後実施する予定の取組) なし		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	0200 汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0.00 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	1,173,190.00 t	t
(これまでに実施した取組) なし			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	0200 汚泥	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0.00 t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	1,397,000.00 t	t
(今後実施する予定の取組) なし			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	0200 汚泥	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0.00 t	t
	(これまでに実施した取組) なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	0200 汚泥	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0.00 t	t
	(今後実施する予定の取組) なし		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	0200 汚泥	
	全処理委託量	2,490.00 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	168.00 t	t
	再生利用業者への処理委託量	0.00 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	0.00 t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.00 t	t
	(これまでに実施した取組) なし		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	0200 汚泥	
	全処理委託量	3,000.00 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	85.00 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	0.00 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0.00 t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0.00 t	t
	(今後実施する予定の取組) なし		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

請
じ
ま
と。

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和7年 6月 25日

尼崎市長 殿

提出者

住所 〒662-0854
西宮市櫛塚町2-28

氏名 兵庫県阪神南県民センター長
團野 礼子
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0798-39-6119
(西宮土木事務所流域下水道第1課)

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	兵庫東流域下水汚泥広域処理場
事業場の所在地	尼崎市平左衛門町65-10
計画期間	令和7年4月1日から令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	3631 下水道処理施設維持管理業
②事業の規模	処理水量 2,672,250m ³ (1%生汚泥として) (令和6年度実績)
③従業員数	60人(メンテ委託業者53人含む) (令和7年4月時点)
④産業廃棄物の一連の処理の工程	汚泥 ↓ 送泥ポンプ場 ↓ 受泥槽 ↓ 汚泥処理(濃縮・脱水・焼却) ↓ 廃棄物(①ばいじん)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
兵庫県			
(公財)兵庫県まちづくり 技術センター	— 武庫川流域下水道 管理事務所長	— 兵庫東流域下水汚泥 広域処理場センター長	— 施設第3課

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（令和 6 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	1800 ばいじん	0200 汚泥
	排出量	5,209 t	0 t
	(これまでに実施した取組) (これまでに実施した取組) 受入汚泥を濃縮、脱水及び焼却し減量化。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	1800 ばいじん	0200 汚泥
	排出量	6,743 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) ・排出量は要請団体より提示された予定汚泥量等より算出。 (今後実施する予定の取組) ・受入汚泥を濃縮、脱水及び焼却し減量化。		

産業廃棄物の分別に関する事項	
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 主たる産業廃棄物の区分についてばいじんと汚泥であり、発生時点ですでに分類されている。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 特になし

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和 6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	1800 ばいじん	0200 汚泥
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 特になし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	1800 ばいじん	0200 汚泥
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 特になし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和 6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	1800 ばいじん	0200 汚泥
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t
(これまでに実施した取組) 特になし			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	1800 ばいじん	0200 汚泥
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組) 特になし			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和 6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	1800 ばいじん	0200 汚泥
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 特になし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	1800 ばいじん	0200 汚泥
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 特になし		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和 6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	1800 ばいじん	0200 汚泥
	全処理委託量	5,209 t	0 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 処理業者と委託契約を結ぶに当たっての事前の確認(処理状況、維持管理状況、周辺状況)と委託後の定期的な確認をした。 中間処理、最終処理については委託処理業者に適切に処分を行うよう指導するとともに、産業廃棄物管理票、計量証明書等で確認した。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	1800 ばいじん	0200 汚泥
	全処理委託量	6,743 t	0 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>引き続き、処理業者と委託契約を結ぶに当たっての事前の確認(処理状況、維持管理状況、周辺状況)と委託後の定期的な確認を行う。</p> <p>中間処理、最終処理については委託処理業者に適切に処分を行うよう指導するとともに、産業廃棄物管理票、計量証明書等で確認を行う。</p>		

(第6面)

備考

1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。

2 当該年度の6月30日までに提出すること。

3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

(1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。

(2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。

(3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。

4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。

5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。

6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。

7 ※欄は記入しないこと。